

奈良工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質化学工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『高校生の地理A』 帝国書院・『詳解現代地図』 二宮書店／配布プリント					
担当教員	上島 智史					
到達目標						
1. 地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。 2. 世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。 3. 世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。 4. 地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。		地図や統計資料の見方を理解できる。		地図や統計資料を活用できず、地理的な見方・考え方ができない。	
評価項目2	世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。		世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できる。		世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できない。	
評価項目3	世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。		世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができる。		世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができない。	
評価項目4	地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。		地域社会が直面する諸課題を理解できる。		地域社会が直面する諸課題を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程（本科1～5年）学習教育目標 （2）						
教育方法等						
概要	「所変われば品変わる」という故事があるように、地域によって習慣・宗教・言語などの社会環境には違いがみられ、それを取りまく自然環境も様々ではない。地理の授業では、世界の諸地域でみられる「地域性」を自然・社会の両面から理解するとともに、各地域が抱える諸問題について考える力を身につける。					
授業の進め方・方法	地理の学習で重要になるのは、地図と統計資料を活用できる能力である。地図・統計資料の種類と読み方を学ぶとともに、実際に世界各地の情報に触れることで、地域の諸事象を考察する。そのため、必要に応じてプリントを配布する。また、思考力を高めるために、グループワークや視聴覚教材を活用する。					
注意点	関連科目 歴史・公共・政治経済・人間環境学・地域学 学習指針 COC+における地域理解教育の一環として、地域に対する愛着を深めるとともに、地域が抱える問題を理解できることが重要である。 自己学習 到達目標を達成するためには、授業以外にも教科書を読むなど、授業内容について理解を深める必要がある。特に、授業後の復習を欠かさないようにすること。					
学修単位の履修上の注意						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		講義の目的・概要・評価方法について理解することができる。	
		2週	地理情報と地図 ①		地図の種類と活用について説明することができる。	
		3週	地理情報と地図 ②		地形図の利用方法を理解し、活用することができる。	
		4週	地理情報と地図 ③		統計地図を読み取りおよび作成することができる。	
		5週	世界の地形 ①		世界の大地形について、分布と特徴を説明できる。	
		6週	世界の地形 ②		河川地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
		7週	前期中間試験		授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
		8週	世界の地形 ③		海岸地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
	2ndQ	9週	世界の地形 ④		火山地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
		10週	世界の気候 ①		大気の大循環を理解し、気圧帯・恒常風を説明できる。	
		11週	世界の気候 ②		世界の気候区分を理解し、雨温図の違いを説明できる。	
		12週	現代世界の国家① 環境問題		世界で起きる環境問題の現状を理解することができる。	
		13週	地域主題学習		日本の自然環境について、その特徴を理解できる。	
		14週	地域主題学習		日本の文化・産業の特色について、地理的に分析できる。	
		15週	前期末試験		授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	

		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。
後期	3rdQ	1週	地域主題学習	奈良県の地域性を理解し、その魅力を見出すことができる。
		2週	地域主題学習	地域調査したデータをまとめ、プレゼンテーションの資料を作成できる。
		3週	地域主題学習	地域を調査する方法を学び、多角的に分析できる。
		4週	現代世界の国家② 東西冷戦と分断国家	戦後の冷戦構造が与えた影響について、歴史・地理的に考察できる。
		5週	現代世界の国家③ 日本の高度経済成長	日本の高度経済成長が生み出したものを理解できる。
		6週	世界の諸地域① 東南アジア	熱帯地域の自然環境と農業について、理解することができる。
		7週	世界の諸地域① 東南アジア	東南アジアの工業化と経済成長について、理解できる。
		8週	現代世界の国家④ 人口・食料問題	人口問題と食料事情について理解し、世界でどのような対応がされているかを考察できる。
	4thQ	9週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	乾燥地域の自然環境と農業について、理解することができる。
		10週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	西アジア・アフリカの経済成長とイスラーム社会の変容について理解できる。
		11週	現代世界の国家⑤ 民族・領土問題	世界の民族問題について、要因と現状を理解することができる。
		12週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	温帯地域の自然環境と農業について、理解することができる。
		13週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	ヨーロッパ統合と経済成長との関係について理解することができる。
		14週	現代世界の国家⑥ 都市問題	世界の都市構造について理解し、日本の都市との違いについて説明できる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後6,後7,後8,後9,後10,後12,後13
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前12,前13,前14,後2,後3,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前12,後4,後5,後8,後10,後11,後13,後14
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	前12,後4,後5,後7,後10,後11,後14
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	後1,後2,後8,後10,後11,後12,後13,後14
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前12,後1,後2,後6,後7,後10,後11,後13,後14

評価割合

	試験（前期中間・前期末・学年末）	授業への取り組み（提出物の完成度、グループ学習等での発言回数や内容）	課題レポート	合計
総合評価割合	60	25	15	100

基礎的能力	60	25	15	100
-------	----	----	----	-----